



第1号様式(第7条関係)

平成27年4月1日

稲城市議会議長  
中山 けんじ 殿

会派名 生活者ネット・民主党  
経理責任者 梶浦 みさこ 印

稲城市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項に基づき、別紙のと  
おり平成26年度政務活動費収支報告書を提出します。

平成26年度政務活動費収支報告書

会派名 生活者ネットワーク・民主党

1 収入

政務活動費 600,000 円







2 支出

(単位 円)

科目	金額	主たる支出の内訳
研究研修費	53,660	講座参加費
調査費	34,266	視察(南相馬市)
資料作成費	0	
資料購入費	55,829	書籍、通信購読料
広報費	384,422	報告書印刷費、新聞折込料、用紙代、印刷インク代
広聴費	0	
通信費	60,000	調査活動に要する経費
事務費	15,163	コピー、ファックス代
その他の経費	0	
合計	603,340	

3 残額

0 円

議長	副議長	事務局長	次長	係長	係長	係
						
備考						
会派研修終了報告書						

研修日	平成26年4月6日～4月7日
研修先	南相馬市
主要調査 研修課題	被災地の復興状況と除染状況を調査する
研修終了報告	別紙
参加者 氏名	中村みほこ

稲城市議会議長

中山けんじ 殿

上記のとおり、会派研修を終了しましたので報告します。

平成26年4月30日

会派名 生活者ネット・民主党

氏名 中村みほこ



被災地の復興状況と放射能の除染の進捗を調査する。

日程:平成26年4月6日(日)~7日(月)

コーディネート:東北関東大震災救援本部(八王子)

## 4月6日(日)

### ■名取市閑上地区

仙台駅から貸し切りバスで移動。海岸線を走ると、田んぼにはまだ打上げられた船が残っている。約5600人のうちの800人が津波の犠牲者となった名取市閑上地区。一端は閑上公民館に避難した人たちが、より海から遠い500m先の閑上中学校への誘導指示が出され、移動している途中に津波に襲われたために多くの被害者を出してしまったとのこと。避難誘導の難しさを感じた。

### ■仙台空港の国内線を見学

空港内の柱には津波到達の高さ3.02mが記されている。

### ■南相馬市かしま福幸商店街

東日本大震災で被災、又は福島第一原子力発電所20km圏内の警戒区域にあり営業ができなくなった店舗事業者等の仮設店舗。飲食店は満席で賑わっていました。隣の公園には「公園の土、遊具は除染済です。」の張り紙。子どもの賑あうこえがいつになったら戻ってくるのでしょうか…市内の要所要所に空間放射線量測定器が設置されているが、**0.102  $\mu$ Sv/h**

### ■南相馬市立 真野小学校跡地見学

1873年(明治6年)創立。海岸から2キロ。1階が津波で破壊され、校庭は瓦礫でしばらく海水が引かなかったために、セシウムが付かず、放射線量数値が低いので除染したところと同じ位とのこと。

全校児童76人と、教職員11名は最初校舎の屋上へ上がったのち、近くの高台に逃れ全員無事。押し寄せてくる津波を背に避難誘導で屋上への階段を駆け上った時の恐怖は、校内の壁に残された泥水の跡に感じることができる。黒板には卒業を控えた6年生に贈る祝いの言葉や寄せ書きが当時のまま残されている。

「今、未来の扉を開ける時、悲しみや苦しみがいつの日か喜びにかわるだろう  
I believe in future!信じてます!」

三月十一日(金)

新しい体育館は広くて羨ましい限りだが、3月31日で廃校となり、鹿島小学校に統合されることになっている。児童数は43人。疎開や原発事故の影響で生まれ育った故郷を離れる子どもやその家族の悲しみや口惜しさを私たちは決して忘れてはいけない。

## ■小高地区住民 酪農家 渡辺哲雄さん(83歳)のお話

会場:銘醸館「ゆうの風」

「ほとんど毎日、家に戻っているが泊まることはできない。不満を吐き出すところがない・・・今、ようやく話せるようになった・・・」と淡々と話をされる渡辺哲雄さん。

平成17年、新建材、外材も使わず、昔の匠の手法だけで田んぼの中に建てた地震に強い家。子どもや孫と暮らしてきた。しかし福島第1原発から20Km圏内にあるため、居住制限区域となっている。3月12日の原発の水素爆発後、相馬市に避難。

現在は6畳のアパート暮らしで、落ち着かずストレスがたまっているが、不満をどこにいえばいいのかわからない。50頭の牛、子牛も含めて90頭位を放したら迷惑をかけると思い、畜舎に閉じ込めて4日間相馬市へ逃げた。「牛」は荒らすから繋いで逃げたが餓死。「放れ牛」は行政によって殺処分された。いっぱいいた警察も自衛隊も3月18日までにはいなくなっていた。相馬市役所に聞くと、「それは危険ということだから早く避難した方がいい」と言われたという。

18日から4か月間、娘がいる福岡で暮らしたが、言葉も通じなかった。戻ってきてても住む処もない。アパートは仮住まい。隣人も知らないので挨拶程度しかない。原発事故以前には酪農研究会を作って、地域内共同体として産業日誌をつけ、4軒で井戸も作り電気も通してきた。同じ方向を向いている仲間がいることが大事だと語る。

翌日渡辺さんの牛舎を尋ねると繋がれたまま餓えた牛たちが最期まで柱をかじった跡が痛ましい。牛舎の裏の草原に目をやると痩せた放れ牛が放射能が降り注いだ草で生き延びている姿があった。自由になって、今を生きている。

つばやきを短歌で詠い始めると、自分の思いが誰かに伝わる気がした。地獄のようだったが、今話せるようになって、ようやく落ち着いてきた。子どもや孫がいるから一生懸命頑張れる。10年たって酪農を再開しても売れないだろう。花や作物かな・・・次の代に繋げていくために何ができるだろうか・・・と不安を語る渡辺さん。

原発事故によって多くの人も動物も、その未来が変わってしまった。いつの日になったら、希望が見えてくるのだろうか。二度と同じ事故を起こしてはならない。取り返しのつかない原発事故の恐ろしさを日本中が共有し、未来のエネルギーを変えていかなければならないと思う。

4月7日(月)

■一般社団法人 除染研究所 高橋莊平さん  
一般社団法人 えこえね南相馬研究機構

えこえね南相馬「再エネの里」(奥村農園：南相馬市原町区牛来)の話を伺った後、現地を見学した。

省エネや新エネルギーを市民自ら学び、どうまちづくりや復興に活かしていくかを考え、再生エネルギーの普及に向けた学習・啓蒙、実践事業を行う。  
ハウスや農地法面等に太陽光パネルの設置、またソーラーシェアリング(立体農業)することで農業と太陽光発電の共存による「半農半電」の新たな地域活性化モデルを作りだす。

発電量30kw/hの太陽光パネル120枚を540㎡の農地の上部にパイプで固定。遮光率は約32%。農作業に支障のない空間を活用する。今は玉ねぎ、にんにくを栽培している。

設備の初期投資900万円は、売電収入42円/kwで換算すると、8年で全額返済で元が取れ、その後はすべて利益になるという。ソーラーシェアリングは地元にも利益が還元され、地域の活性化だけでなく、地域の人たちへの再生可能エネルギーの普及とともに、省エネの意識が高まることも期待されている。

「みんなでつくる！」が根っこにあると全然違う。放射性物質や塩害の除去の課題があっても、それを活用して安心できる物をつくる。今後は菜の花栽培も予定している。菜種からバイオディーゼルへ。原発がなくてもやれる環境を整える、原発への依存度を下げていくことが大事。

避難しないで「ここに居る」と決断した人たちへのアプローチを考えてきた。外遊びができない子どもたちはメンタルへの影響が心配され、大人は成人病リスクが高くなってきた。働き盛りの親が元気になるには・・・農業を再開するきっかけを探して考えたのが「再エネの里」。と思いを語る高橋さん。

南相馬に残ると決断した人たちが「みんなで農地と農業を元気にして街を元気に！」と着実に前に進んでいる様子を感じとることができた。

後継者不足に悩む農家は多い。この視察で新しい農地の活用方法など学ぶことが多かった。稲城でも活かせる点を探っていきたい。

#### ■車中から見た浪江町

梱包された汚染土壌がそこかしこに積み上げられ、撤去される先も見つからない。閉鎖された学校の校庭にも残っている。子どもの声が戻ることはないのだろうか・・・福島駅前の放射線量測定器の数値は **0.202μSv/h**

この現状を何ら解決もできないまま、また原発を再開することは決して許されない。未来の子ども達にどんなエネルギーを残していくのか、しっかり考え取り組み続けていかなければならないと強く感じた。

# 住民の避難の状況

2011/3/11

14:26 地震

20:50 原子力緊急事態宣言 半径2キロ以内 避難指示→範囲拡大

21:23 3キロに避難指示 3キロ～10キロ圏内 屋内退避

3/12 半径20キロ以内 避難指示

3/15 半径 20 キロ～30 キロ圏内 避難指示 圏内の住民は避難を始める

3/25 屋内退避の住民に自主避難を要請

4/22 半径 20 キロ圏内 警戒区域 住民強制退去 立ち入り禁止に

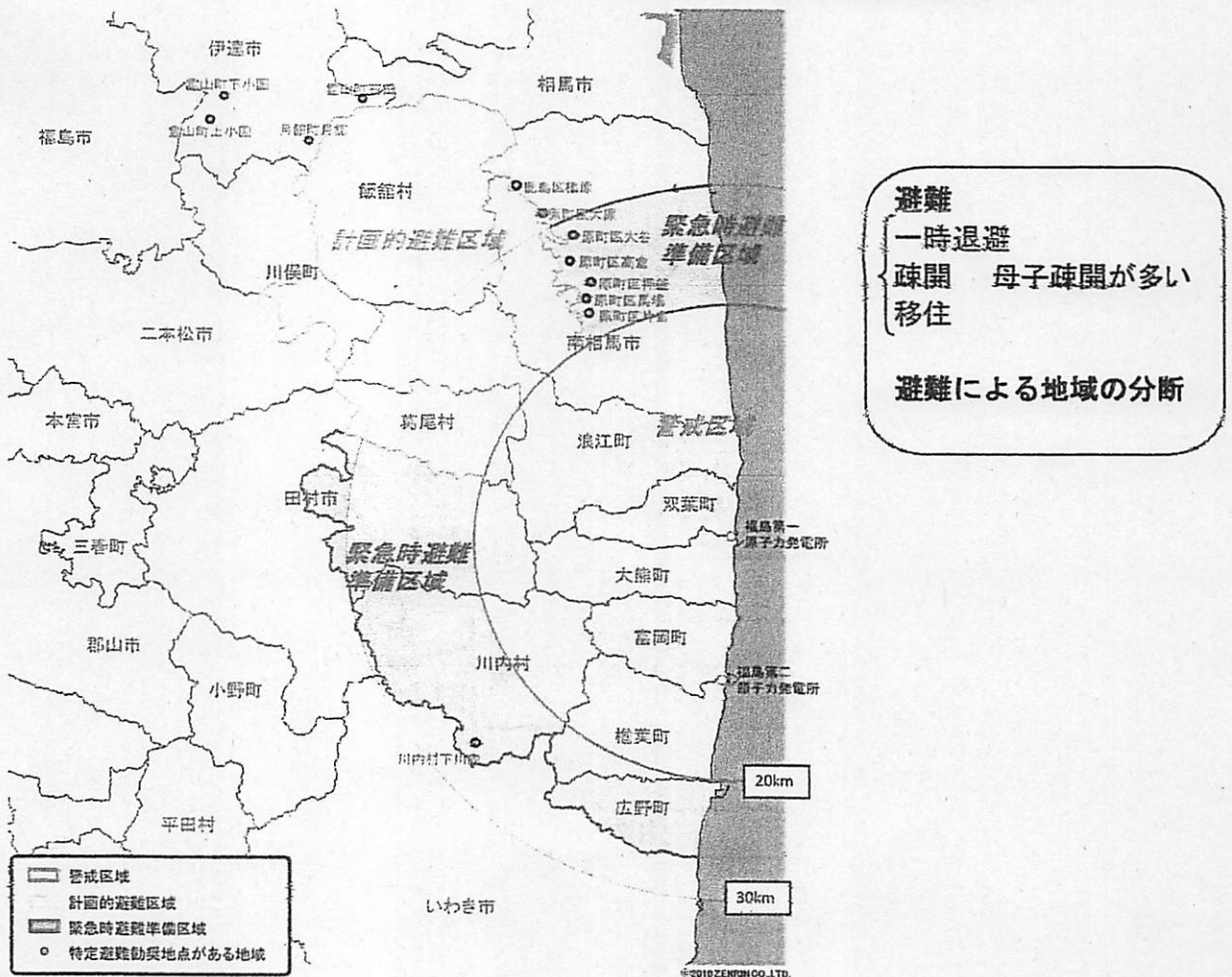
20 キロ圏外 計画的避難区域 1ヶ月かけて避難

半径 20 キロ～30 キロ圏内 屋内退避指示解除で緊急時避難準備区域

6/30～順次 特定避難勧奨地点

指定された区域外に避難した人は 11 万 3,000 人

警戒区域、計画的避難区域、緊急時避難準備区域及び特定避難勧奨地点がある地域の概要図  
(緊急時避難準備区域解除前)



## 2011/12～ 避難区域見直し 3 区域に再編

避難指示解除準備区域 年間被ばく線量 20 ミリシーベルト以下

居住制限区域 年間 20 ミリシーベルト超 50 ミリシーベルト以下

帰還困難区域 現時点で年間 50 ミリシーベルト超

2012/4/1～ 避難区域順次再編

- 警戒区域 第一原発から半径 20km 以内
- 計画的避難区域 事故後 1 年間の積算線量が 20 mSv 以上になると予想される区域
- 特定避難勧奨地点 警戒区域・計画的避難区域外で事故後 1 年間の積算線量が 20 mSv 以上になると予想される地点が地域内に含まれる区域
- 帰還困難区域 5 年を経過してもなお、年間積算放射線量が 20 mSv を下回らないおそれのある、現時点で年間積算放射線量が 50 mSv を超える区域
- 居住制限区域 年間積算放射線量が 20 mSv を超えるおそれがあり、住民の被曝放射線量を低減する観点から引き続き避難の継続を求める区域
- 避難指示解除準備区域 年間積算放射線量が 20 mSv 以下となることが確実であることが確認された区域

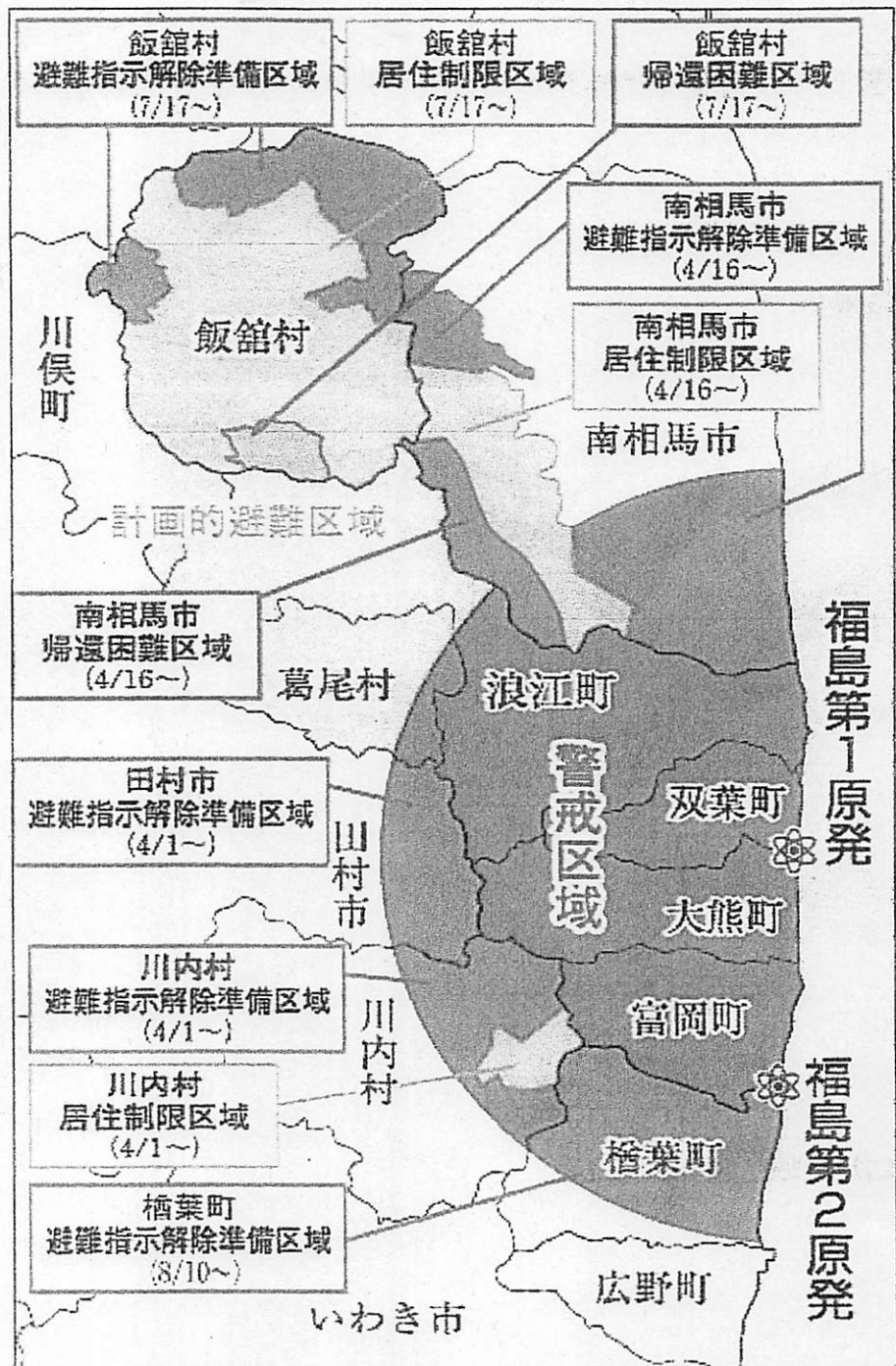
2013/12/25 「28年(2016)4月解除」表明

避難指示解除準備、  
居住制限区域

クロ【事故後】  
年間20ミリシーベルト以上の被曝は、強制的に避難

シロ【事故前】  
年間1ミリシーベルト以上の被曝は与えてはいけない

グレーゾーン  
1ミリシーベルトから20ミリシーベルトは従前の枠を曲げないで、1ミリシーベルト以上の地域は全て支援対象地区とすべき

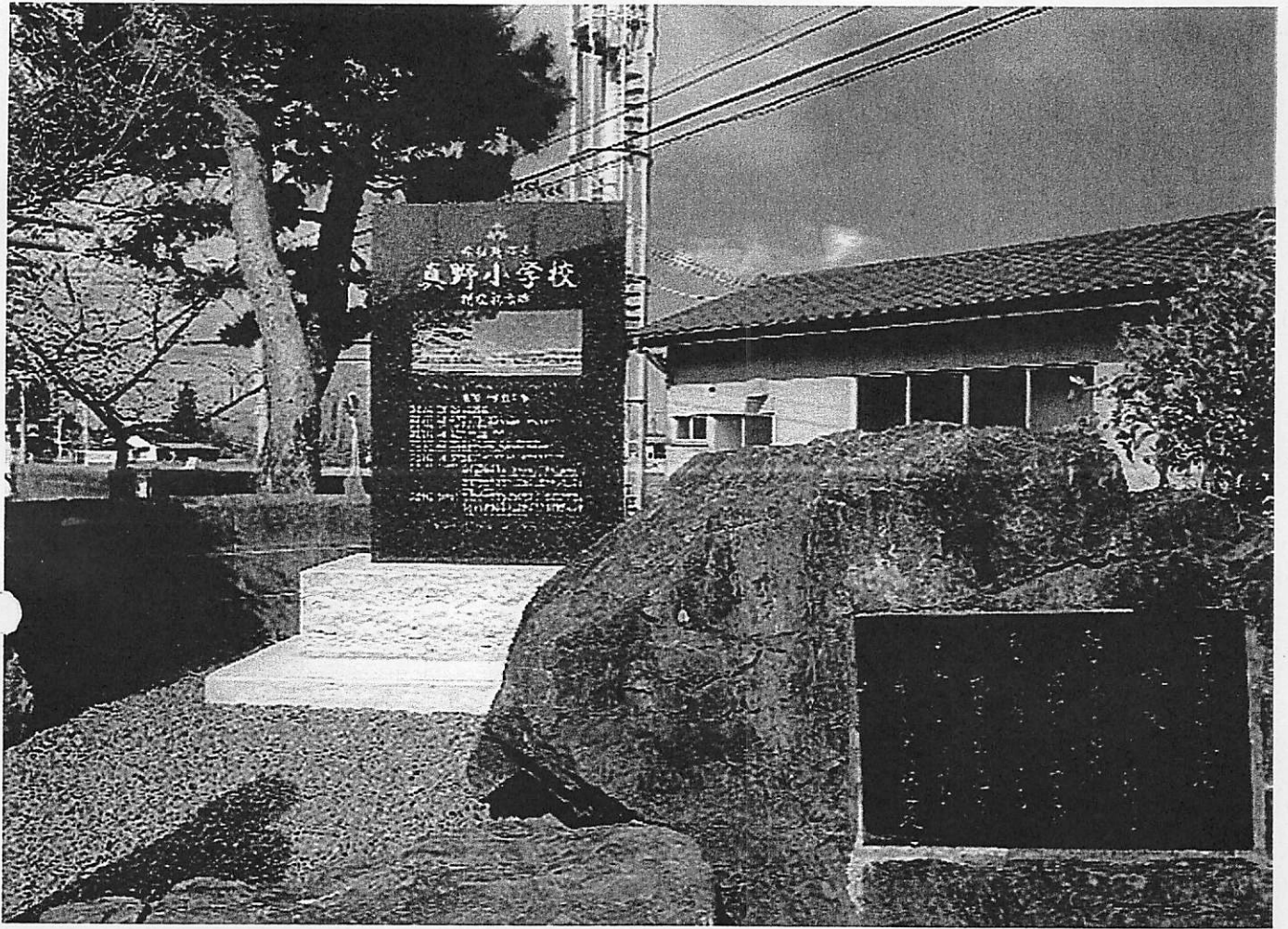




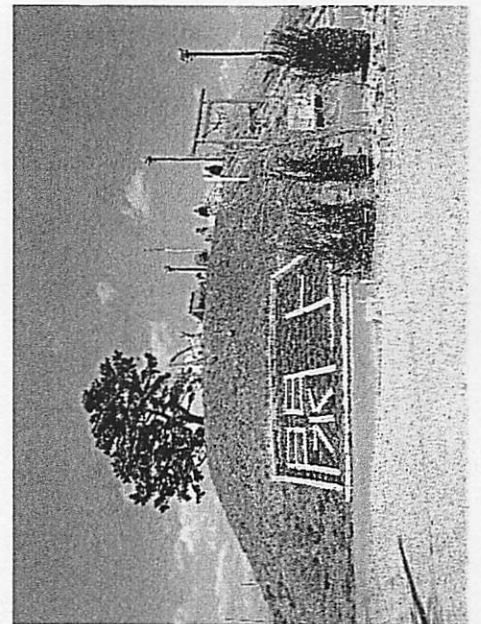
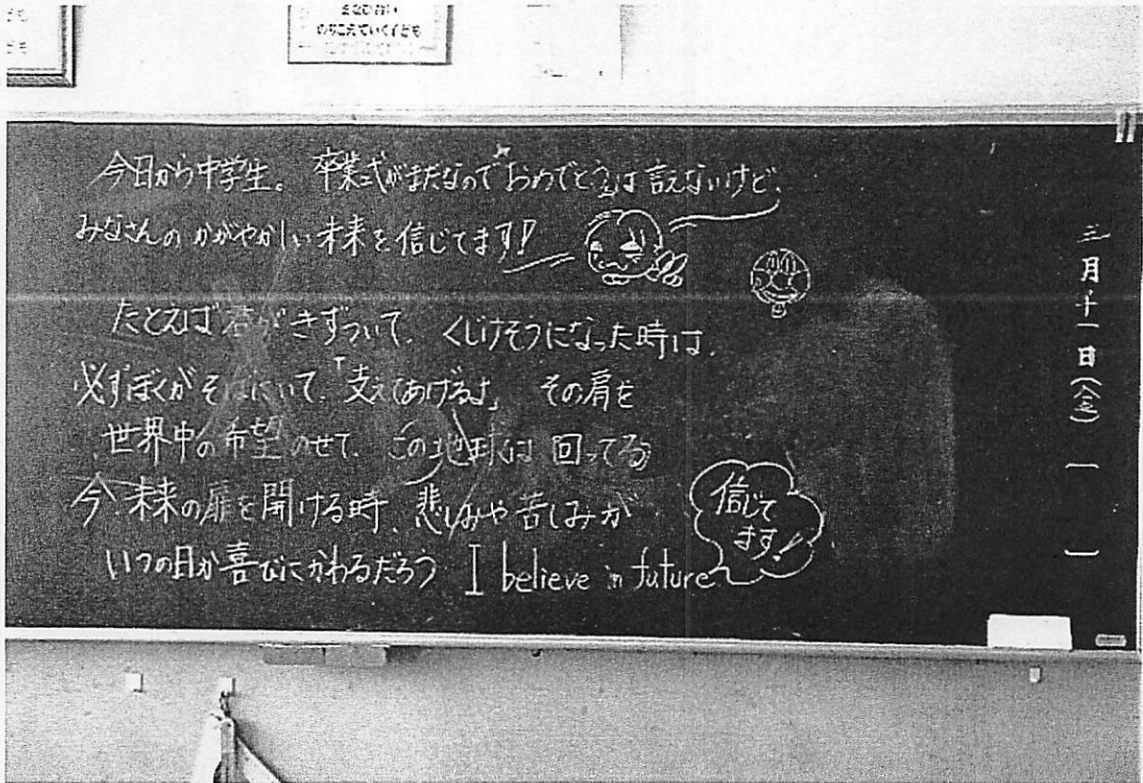


仙台空港

真野小学校



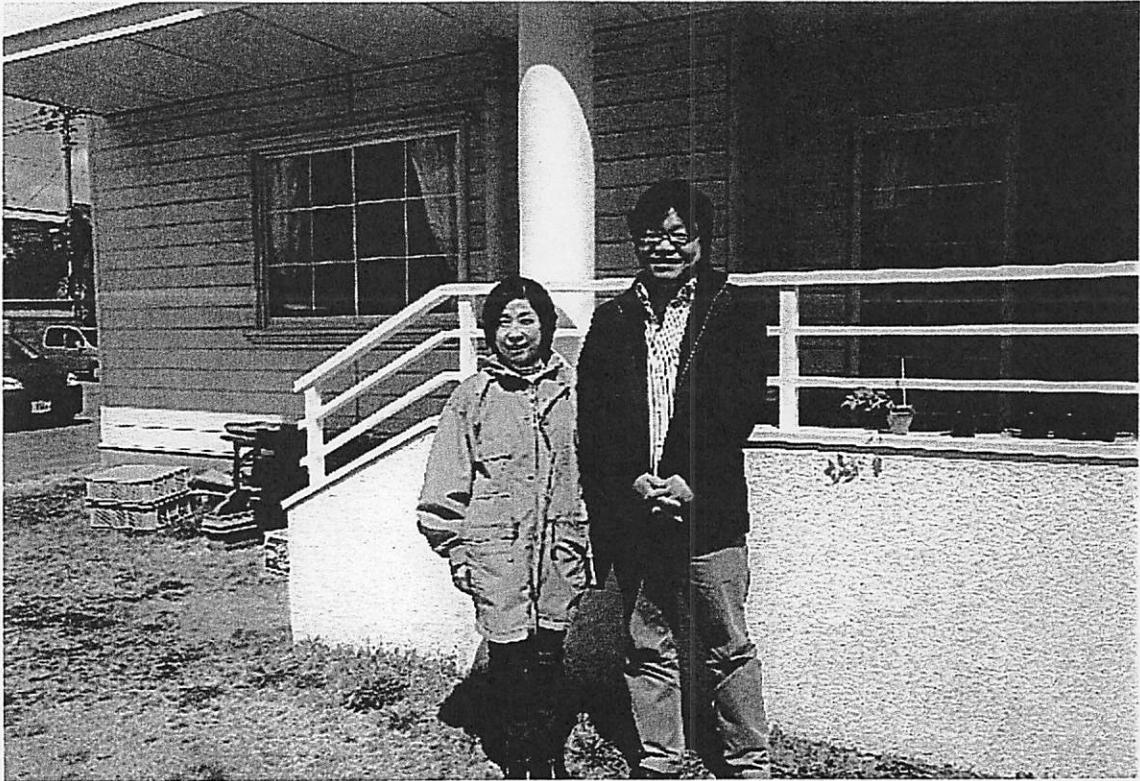
# 真野小学校



真野小学校



えこえお南相馬研究機構



えこえお南相馬 「再エネの里」

従来の再生エネルギー  
福島県南相馬市飯沼地区

夕陽を浴びて新島に輝くソーラーパネル

**ソーラーシェアリング  
モデル地区**

発電容量: 30MW  
設置面積: 640ha  
優先率: 約92%  
バリエーション: 2地域別

共同作業で制作

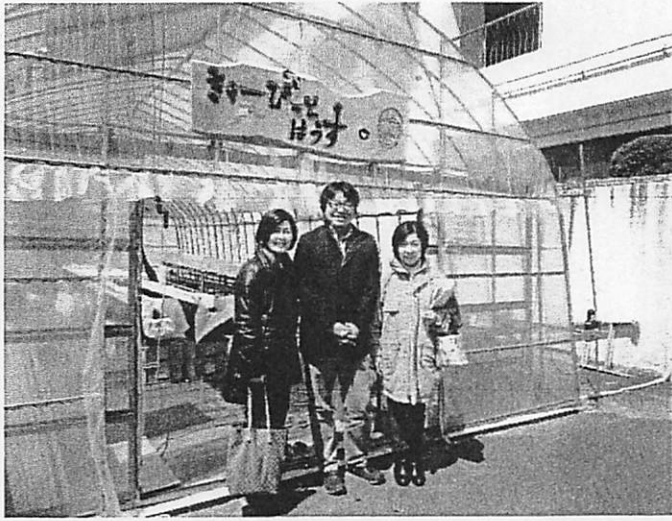
大作業に活用される

野の花を美しく

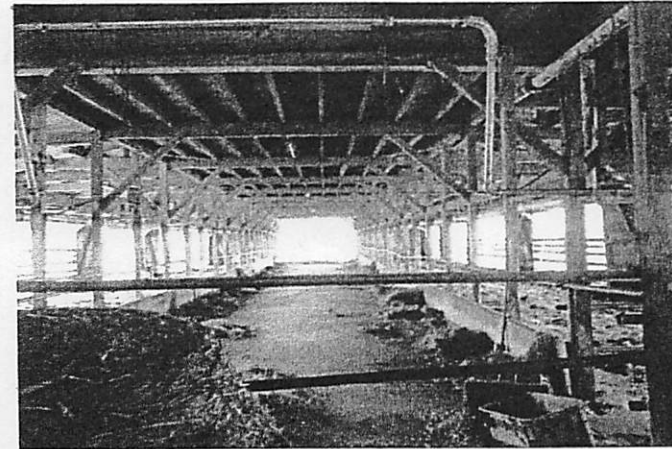
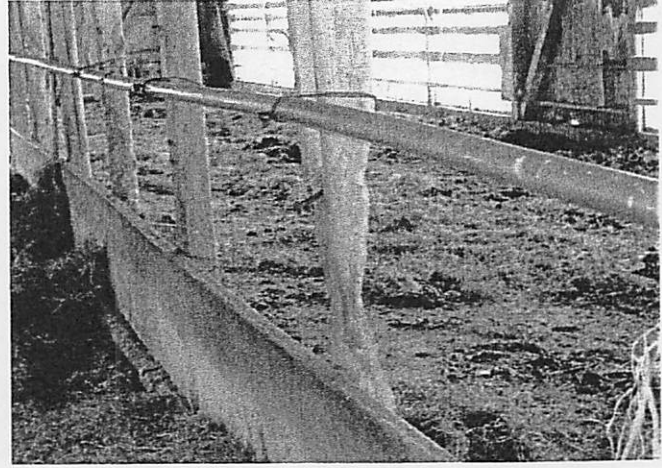
**新島**

発電  
ソーラーシェアリング  
共同作業

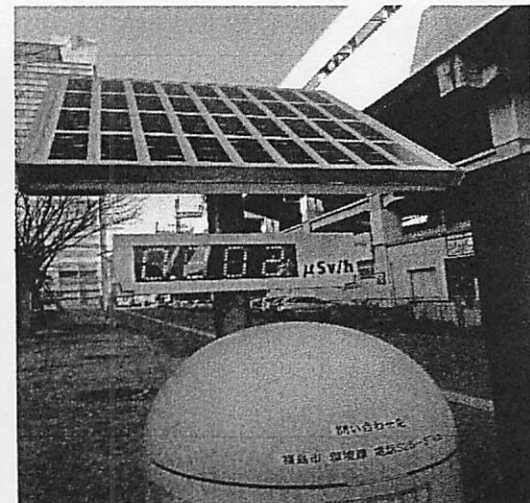
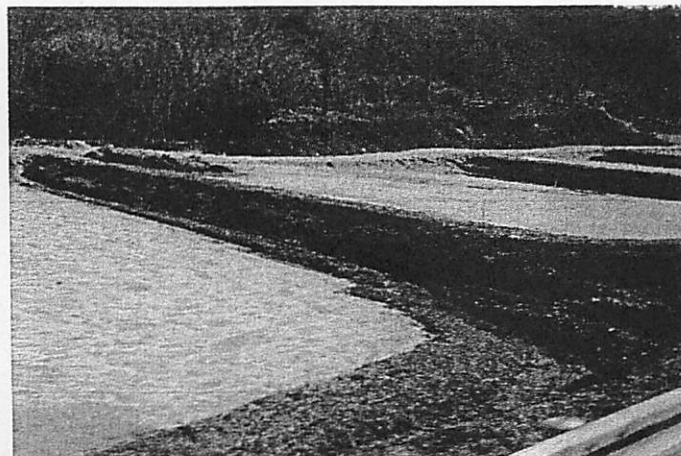
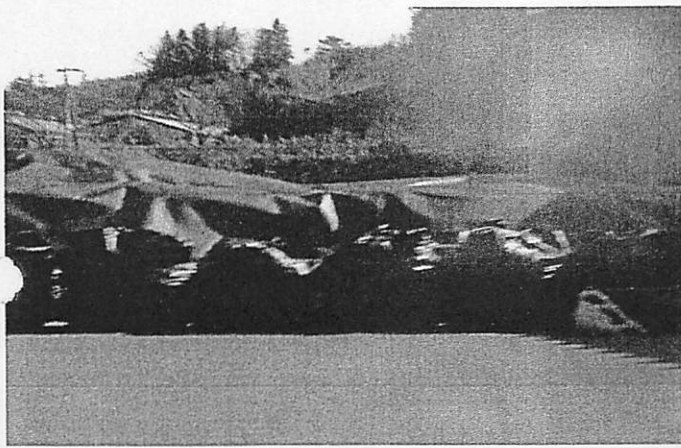
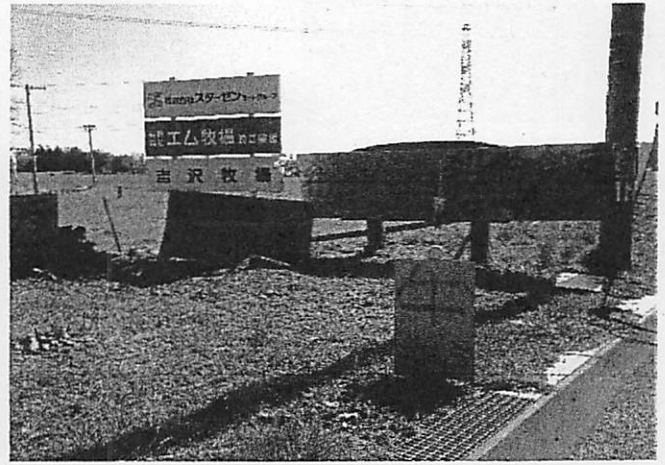
総面積: 約2,000㎡  
=357-4=2.3倍 =25倍



渡辺哲雄さん宅



放牧中



福島駅前

## 再生可能エネルギーによる復興促進

### 農地と太陽光発電の共存による農業再生と地域活性化

#### 【背景】

1. もっと農地を活かしたい
  - ・米の作付制限を乗り越えていきたい
  - ・畑作も風評被害で外部に売りにくい
  - ・農地が荒れると元気が出ない
  - ・原発補償依存の次の手を考えたい
2. 街の活力が欲しい
  - ・震災、原発事故で人口減少
  - ・二次産業の撤退や縮小、
  - ・三次産業も人が減って縮んでいる
  - ・農地と農業を元気にして街を元気に！
3. 再エネを復興のバネとしたい
  - ・脱原発宣言、再エネ推進ビジョンの実現
  - ・外部の人との交流やノウハウの共有で  
交流人口を増やしたい

#### ◎農地を活かしながら太陽光発電

- ① ソーラーシェアリング
- ② ハウス de ソーラー
- ③ 農地法面、周縁部の活用

#### ◎南相馬を再エネモデル地区に

- モデルケースとしてアピール
- 順次、隣接するエリアに広げていく

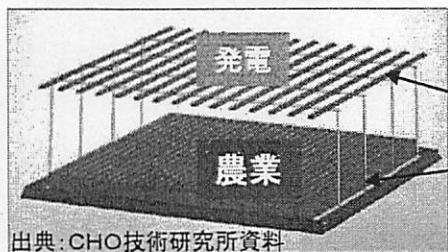
#### 農地と再エネの共生の効果

- 農業を継続しながら生計を立てられる
- 農家は安定収入を得られて、後継者も育つ
- 田畑を耕すことで健康維持、医療介護費用減
- 「半農半電」の新たな地域活性化モデルづくり
- 農業自給率&エネルギー自給率の向上

### 「農業と再エネの共生」の手法

#### ① ソーラーシェアリング

=太陽光を、作物生育と発電とで分かち合う



棚上部で発電  
下部で農業

出典: CHO技術研究所資料

#### 半農半電

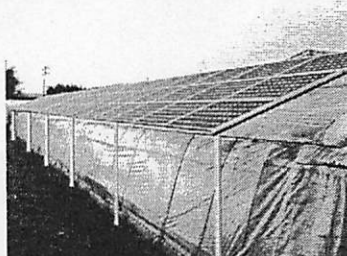
=持続可能な農業を目指して=



#### ② ハウス de ソーラー

=ハウスの屋根で太陽光発電

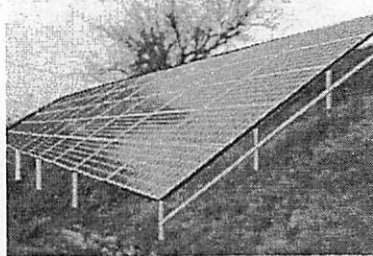
【例】ビニールハウスに設置



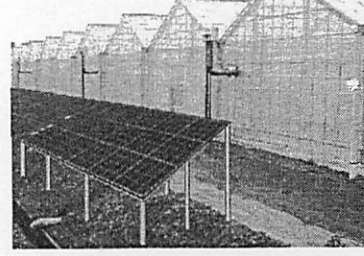
#### ③ 農地周縁 de ソーラー

=農地の法面や周縁部等を活かして太陽光発電

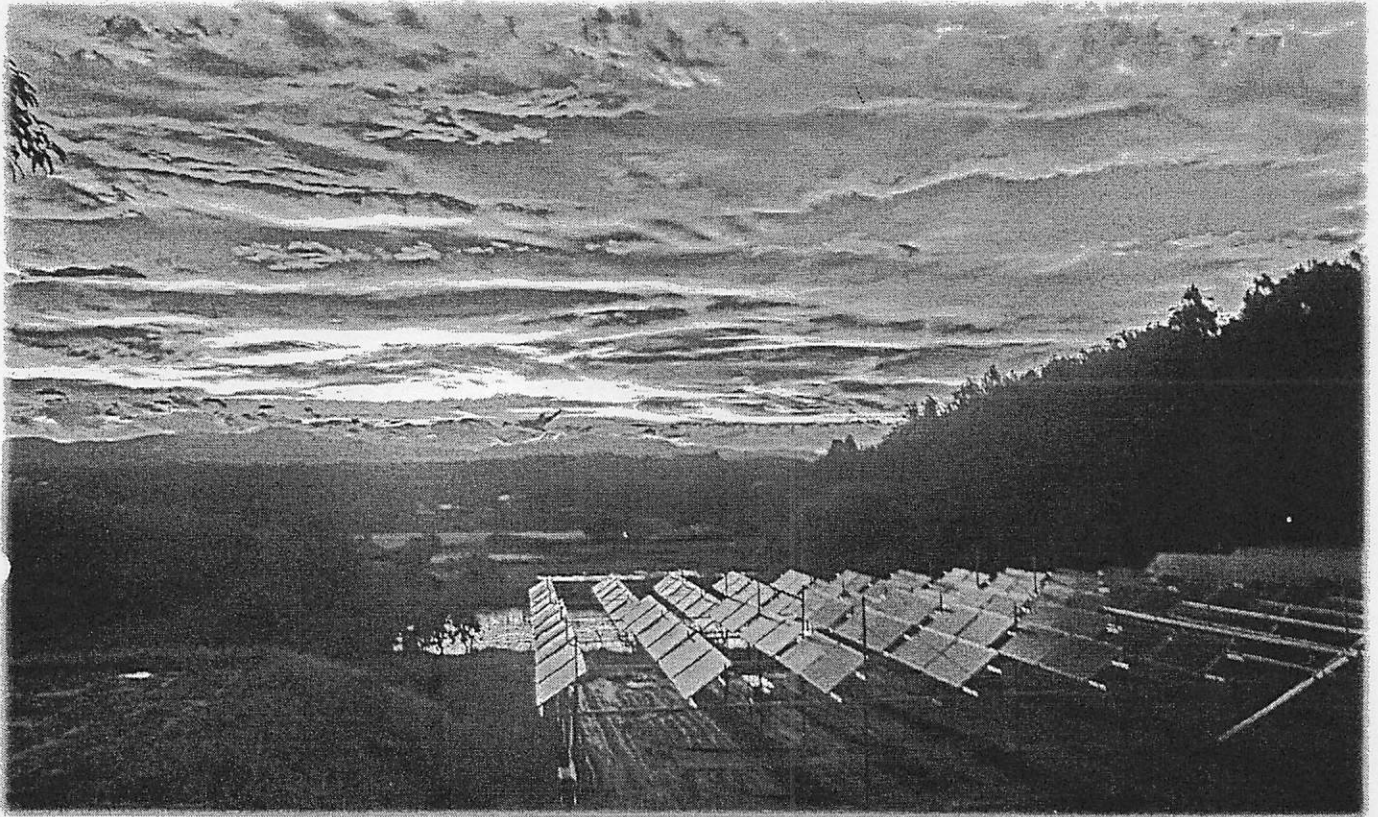
【例】農地法面に設置



【例】ハウス周縁部に設置







夕陽を浴びて茜色に輝くソーラーパネル

再エネの里

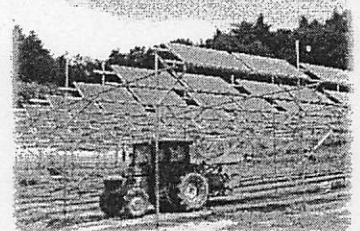


ソーラーシェアリング  
モデル施設

発電容量: 30KW  
設置面積: 540㎡  
遮光率: 約 36%  
(パネル面積÷設置面積)



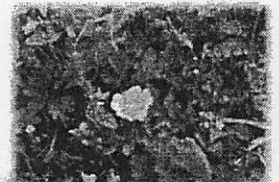
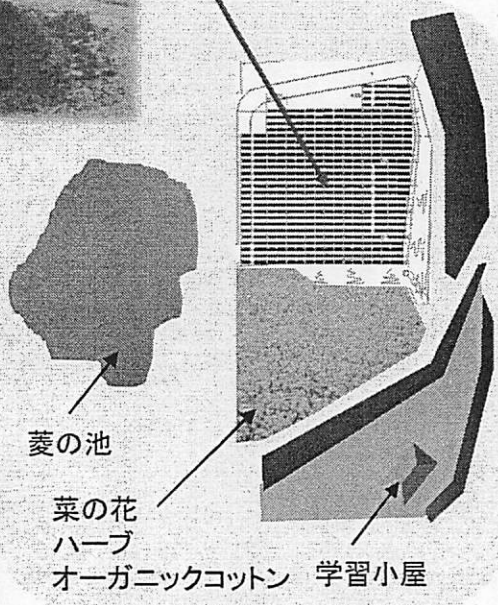
共同作業で制作



農作業に支障ない空間



子どもと一緒に



野の花も美しく



丘のある風景

総面積: 約 2,500 ㎡  
=25アール= 2.5反 =25畝



西に見える阿武隈の山なみ

